

人材採用最前線

介護を学ぶ学生数は大幅に減少している。他学部の学生は介護の仕事が視野に入っていない。どうすれば興味をもってもらえるのか。業界・業種を越えて、何のために就職活動を行なっているのかを考えさせ、選択肢の幅を広げ、介護以外の学部出身の学生へのアプローチに成功している日の出医療福祉グループの事例を紹介する。

取材・文／堀切孝治

学生の就職観をフラットにする

「人生を考える」インターンシップ

他学部の学生も取り込むため
インターンシップを導入

一般社団法人日の出医療福祉グループ（兵庫県加古川市）は、医療・介護・保育サービスを提供し、地域社会に貢献することをめざす共同事業体。兵庫県を中心に、大阪、東京、埼玉、神奈川に161事業所あり、売上145億円、従業員数は3200人にのぼる（2021年度）。

同グループの新卒採用は、2つ

のインターンシップを含む独自の選考フローによって行われる。

※脱・自己分析（インターンシッ

プ①）↓AI面接↓会社説明会↓

※ギフト（インターンシップ②）

↓個別選考という流れだ。以前

は、応募学生をマンツーマン方式

のみで採用していたが、ターゲット

トとしている「介護を学ぶ学生以

外の学生」へのアプローチができ

ていなかった。

「介護を学ぶ学生は減る一方で、

他学部の学生の選択肢には介護業



インターンシップで
人生を成功させるための
就活を考えさせる

一般社団法人

日の出医療福祉グループ

From 兵庫県加古川市

インターンシップ Check Point

- ☑ まず学生の本当のニーズに応える
就活を、人生を、真剣に考えさせる
- ☑ 就職観がフラットになってはじめて、
業界・法人の魅力を伝える

界が入っていない状況に、問題意識を感じていました。「ゆくゆくは福祉業界が人気業界になる」という信念のもと、他学部まで広げてアプローチすることを決めました（日の出医療福祉グループ人事教育部・大西恵理子さん）

この思いから、外部のコンサル

タントの協力を得て、まず就活生

の集客、そして、介護の学部だけ

ではなく、他学部の学生を取り込

むためのインターンシップに取り

組むこととなった。

業界や職種で選ぶのではなく
自分の軸で考える大切さ

※脱・自己分析は、1日4時間

の1DAYと1泊2日の2DAY

の2つに分かれる。業界・企業・

職種については全く触れず、学生

が最も求めている就活の本質に迫

る、「自分自身は何者か」「本当に

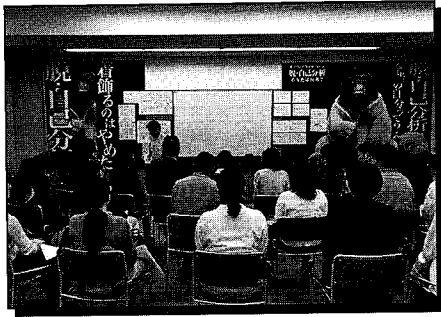
大事なことは何か」を考えるプロ

グラムとなっている。

「表面的な『自分はどうなりた

いか（業界や職種）ではなく『自

▼「脱自己分析」の様子。参加した学生からは「人生が変わった」という声があったという



分はどうありたいのか（人生観）」が明確になり、それを言語化するところまで私たち職員もことんつき合います。企業選びのための就活ではなく、人生を成功させるための就活にしてほしい、自身の進路について立ち止まってしっかりと考える機会にしてほしいですね」と、大西さんはその狙いを説明する。学生は、自分の進むべき人生について真剣に考え抜くうち「他者に承認されたい」「自己実現したい」など、自分自身を突き動かしている動機は何かということに目覚める。自分のありたい姿を叶えるためには、業界や職種のみで選ぶ就職活動以上に、自分の軸で考えることがいかに大切である

か気づく。

ここでようやく就活のスタートラインに立つ。仕事とは業界や職種にかかわらず、相手のニーズに応えること。そして、プロの仕事とは期待を超えて相手のニーズに応えていくこと。学生は、自分の本当のニーズを気付かせてくれた目の前のプロの社会人が、自分のありたい姿を実現するために真剣に仕事に取り組んでいる姿に信頼感をもつ。この人の話なら聞いてもいいと興味を示すようになる。

介護の仕事を自分事と捉えていない学生に、何を話しても聞く耳をもたない。さらに言えば、介護業界で働く人のイメージはネガティブなものだろう。しかし、自分の目の前の人たちは違う。

「脱・自己分析」は、自分自身の人生を真剣に考え、就職観をフラットにし、「仕事とは業界や職種ではなく相手のニーズに応えること」と気付かせ、私たちの話を聞いてもらう土台づくりと考えています」と大西さん。脱・自己分析で就職活動の本質を理解してもらい、結果として自然に福祉業界が視野に入ってくれば、学生

への「介護の魅力」の伝え方が変わるという。

**就職観がフラットになった学生に
業界・法人の魅力を伝える**

脱・自己分析の後は、自分自身の軸を言語化できているか確認するため、AI面接を受験してもらった。就職観がフラットになった学生に、「視野を広げ業界研究の参考になる」とアプローチして会社説明会に誘致する。「福祉業界はサービス業、ほかの業界と変わらない」「社会的ニーズが急拡大する成長市場、未成熟な業界なので、自分のありたい姿を叶え、自分たちが業界を変えていけるビジネスチャンスが多い」ことを説明する。さらに、日の出医療福祉グループがどのような挑戦をしているのか具体的に伝える。「自分もありたい姿に向かって挑戦できる」「自分が成長できる」「提案制度があり、1年目でも提案できる」「企業内起業ができる」ことなどを伝えていく。

その後のインターンシップ「ギフト」は、介護を体感してもらったものだ。「介護で働く」を体感さ

せるプログラムで、狙いは「介護」の価値を上げること。就職観がフラットになり会社説明会で業界・企業に魅力を感じた学生に、最後に「介護で働く」を体感させ、学生にその根源的な価値を感じてもらおう。これが「ギフト」の役割だ。そして個別の面接選考に入る。

インターンシップ、特に脱・自己分析を導入したことで、日の出医療福祉グループを就職先の選択肢として選ぶ学生が増えたと、大西さんは語る。「日の出医療が面白いことをしている！とありあえず会っておいで！」と、学生の間で口コミも広がりました。そのおかげで、介護以外を学ぶ学生も選考に来てくれるようになりました」



一般社団法人
日の出医療福祉グループ
●兵庫県加古川市平岡町新在家
2333-2
URL hinode.or.jp/